

国語3年

光村図書版 [国語] 準拠

本書のねらい

本書は日常の学習を通じて、教科書の内容を理解し、定着させるためのテキストです。

まず、教科書の単元内容の理解に必要な基本知識を学習できるように単元の要点をまとめています。次に「読む」単元の学習に必要な読み解き力や記述力、「話す・聞く」「書く」「情報」などの単元で行う活動につながる実践力、これらを強化していくために多彩な問題を掲載しています。

以下のような構成で、日々の授業の復習から定期テスト対策まで、効率よく学習することができます。

本書の構成

■ 単元の確認

【全体像の確認】→【全体像の確認問題】(説説・小説など)

文章内容をまとめた図を中心に、全体像をつかみ、問題を解いて確認します。

文章中のキーワードは、太字で示しています。

【作者・作品の確認】→【作者・作品の確認問題】(古典・詩歌)

作者・作品・作品背景などをつかみ、問題を解いて確認します。(重要語句は太字で示しています。)

■ 知識の確認 (古典・詩歌) → ■ 知識の確認問題 (古典・詩歌)

内容理解に必要な知識事項をまとめた一覧表などで学習し、一問一答形式の問題を解いて確認します。

○ 古典の歴史的仮名遣い・返り点・送り仮名、詩歌の形式や表現技法など

■ 漢字・語句の確認

新しく学習する漢字の読み書き・語句の意味を中心に、文章を読むための基礎事項を問題を解いて確認します。

○ 成修問題

教科書の文章内容を理解し、基本的な読み解き力を身につけるための問題です。

さまざまな形式の問題を解きながら、文章を読み深めます。

○ 定期テスト問題で身につけた読み解き力・記述力の、さらなる向上を目指します。

定期テストの頻出部分に再度取り組み、○ 定期テスト問題より難易度が高く、角度の違う問題を解くことで、さまざまな問題への対応力を身につけます。

マークについて

よく出題される問題です。
出る

思考力・判断力・表現力
さまざまな角度から物事を捉えたり、考えて表現したりするこ
とで「思考力・判断力・表現力」を
伸ばす問題です。

■ 「話す・聞く」「書く」「情報」などの単元

【知識の確認】→【知識の確認問題】

定期テストで出題されやすい知識事項を中心に、実際の活動に生かせる実践問題にも取り組みます。

■ 文法単元

上段【文法の確認】・下段【文法の確認問題】→【定期テスト得点UP問題】

上段の文法事項のまとめを参考しながら、下段の問題を解き、最後に総合的な問題に取り組みます。

目次

国語の本
第3版
総合

1 世界はうつくしく	46	1 深まる学びへ	4	4 卷頭	/			
2 握手		3 「聞く」評価しながら聞く		21 「議論」話し合いを効果的に進める				
3 季節のしおり 春		4 学びて時に之を習ふ―「論語」から		22 合意形成に向けて話し合おう				
5 情報整理のレッスン 情報の信頼性		6 文章の種類を選んで書いて		23 音読を楽しもう 初恋				
6 修学旅行記を編集する		7 視野を広げて		24 季節のしおり 秋 和歌の世界				
7 作られた「物語」を超えて		8 思考のレッスン 具体化・抽象化		25 夏草―「おくのほそ道」から				
8 説得力のある構成を考えよう		9 スピーチで社会に思いを届ける		26 古典名句・名言集				
10 リオの伝説のスピーチ		11 漢字に親しもう		27 情報を読み取って文章を書いて				
11 実用的な文章を読もう		12 漢字に親しもう		28 読書に親しむ				
12 報道文を比較して読もう				本は世界への扉 エルサルバドルの少女 ヘスース				
47 46	45 41	40	38 32	31 30	28	27 20	19	8
64 62 68 63	60 56 59	52 55	50 42 51 49	40 38 39	34 37	32 28 33 31	27 26	14 25
/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/
137	136 134	132	126	115	104	101	99	98
191 188 190 187	176 174 175	172 173	166 171	163 154 164 162	148 147 153 147	146 144 147 145	142 140 141 139	135
/	/ /	/ /	/ /	/	/	/	/	/

3 言葉ひともじ

俳句の可能性

俳句を味わう

言葉を選ぼう

もつと「伝わる」表現を曰ぎじて

言葉1 和語・漢語・外来語

読書生活を豊かに

「私の一冊」を探してじりじり

ためになるつてどんな」とか

季節のしおり 夏

4 状況の中で

挨拶—原爆の写真によせて

16 故郷

聞き上手になろう

質問で相手の思いに迫る

18 「推敲」論理の展開を整える

言葉2 慣用句・ことわざ・故事成語

漢字に親しもう③

5 自らの考え方

人工知能との未来

人間と人工知能と創造性

多角的に分析して書こう

説得力のある批評文を書く 漢字に親しもう④

97 95 86

134 130 124
133 129

/ / /

85 84 83 82 81 66 63

122 119 117 116 114 98 94
121 118 115 113 97

/ / / / / /

62

92 91 82
87

/

61 51

78 77 76
73

/ /

季節のしおり 冬

8 未来へ向かって

温かいステープ

わたしを束ねないで

三年間の歩みを振り返ろう

冊子にまとめて、発表会をする

漢字に親しもう⑥

文法・漢字・振り返り

31 文法一、二年生の復習

32 文法への扉

33 文法1 文法を生かす

34 文法2 文法のまとめ

35 小学校六年生で学習した漢字一覧

36 高瀬舟

37 二つの悲しみ

38 アラスカとの出会い

39 古典芸能の世界—歌舞伎・浄瑠璃

古典・近代文学の名作

40 常用漢字表について 語彙を豊かに

183 180 178 176 172

286 284 272 270 269 263 259 246
287 285 277 271 268 262 258

/ / / / /

170 166 162 158
223 215 177 212 61 210
224 218 214 211

/ / / / /

157 156 153 148
208 204 200 196
207 203 199

/ / / / /

137

194

1 世界はうつくしいと

● 単元の確認 ●

作者・作品の確認

● 詩の作者：長田弘一（おさだひろいち）一九三九～二〇一五年。福島県出身。詩人。

● 作者の主な作品　詩集：「深呼吸の必要」「心の中にもつてゐる問題」「森の繪本」「世界はうつくしいと」

作品構成・特徴

一連構成

句読点を使用

「……はうつくしいと。」の繰り返し

作品内容

「いつからか、誰もうつくしいといふ」とばを口にしなくなり、わざたちの会話が貧しくなった
→世の中の現状への苦言
「うつくしいものをうつくしいと言おう。」　→人々への呼びかけ

「風の匂い」、「渓谷の石を伝わってゆく流れ」など……自然の姿

「樹のある街の通り」、「花々のある路地」など……街の様子

「雨の日の屋根の色」、「コムラサキのむらさき」など……身近な色彩
「なにげない挨拶」、「猫とあそぶ」一刻など……人間の営み
「過ぎてゆく季節」、「老いてゆく人の姿」など……時の経過

世界はうつくしいと

「うつくしいものをうつくしいと言おう。」　→再度の呼びかけ
「あざやかな毎日」こそが、「わたしたちの価値」である
「あざやかな毎日」こそが、「わたしたちの価値」である（言おう）

何気ない日常の中にもりばめられている「うつくしいもの」をいとおしむ思いが描かれている。

作者・作品の確認問題

1 「世界はうつくしいと」の作者名を書きなさい。

○の小冊子
詩を音読して、言葉の響きやリズムを味わう。
使われている言葉や表現技法に注目し、詩に込められた作者の思いを読み取る。

2 詩の特徴について、次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。

「、」や「。」といった□が使われているが、改行によつて

詩の形式となつてゐる。

「……は

」という表現が、合計で十六

回繰り返されている。

3 詩の内容について、次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。

この詩は、□といふことばを誰も□にしなくなつ

てしまつてゐる世の中の現状を捉え、「

」

と人々に呼びかけてゐる。そして、身近で何気ない日常の中からたくさん

を取り出し、それらに囲まれ

てゐる「□」であるとつたつてゐる。

知識の確認

1 詩の分類

参考ページ 知識の確認

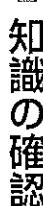
(1)用語	(2)形式
文語詩	定型詩
古い言葉や文法（文語）を使って書かれた詩。	五音・七音など、音数に一定の決まりがある詩。
現代の話し言葉（口語）に近い文体で書かれた詩。	音数に一定の決まりがない、自由な形式で書かれた詩。

2 表現技法

- 詩の用語・形式 (1)用語による分類 (2)形式による分類

(1)・(2)を組み合わせて「○語 ○○詩」と表す。

比喩	
直喻	「ようだ」「ことく」などを使ってたとえる方法。 〔例〕少年は風のように通り過ぎていった。
隠喻	「ようだ」「ことく」などを使わないのでたとえる方法。 〔例〕昨日 私の心は快晴だった
擬人法	人間でないものを人間にたとえて表す方法。 〔例〕木の上で小鳥たちが楽しそうに話していた
体言止め	行末を体言で終える方法。 〔例〕はるか向こうには雪を頂いた山々
反復	同じ表現を繰り返す方法。 〔例〕青い空を見ていた 〔例〕夢を見よう
ゆっくり眠ろう	くよくよするのはよそう
そして 夢を見よう	
※語句を繰り返す場合の他に、行を繰り返す場合もある。	



1 知識の確認問題

普通の言い方と、言葉の順序を入れ替える方法。：強調

例いつもすぐそばにあるよ 幸福は。
言葉を形や意味が対応するように並べる方法。：整然とした印象

例川は 流れる 私は とどまる。
※二行続きの場合が多いが、三行に渡る対句表現もある。

●詩の分類について、次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。

- ・口語で書かれ、□□□にとらわれない詩は、用語・形式上、

に分類され、「世界はうつくしいと」の詩も

これに当たる。

2 次の部分に用いられている表現技法を後から選び、書きなさい。（後の言葉は一度しか使えません。）

- ① どこへ行つてしまつたのだろう ぼくの昨日は

② 夜空ではじけきらめく花火

③ 遠くにあるのは夢見る明日

④ 近くにあるのは平凡な日常

⑤ 帰つてきた／二十年たつてふるゝとへ／
ようやく／帰つてきた

⑥ 心の時計を止めて

⑦ 深い湖のような沈黙が広がる



▽▽▽ 次の詩を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

- (3) [出る] — 線②「わたしたちの会話は貧しくなった」とあります。はどのようなことを表していると考えられますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
 ア わたしたちが、乱暴な言葉遣いをするようになってしまったこと。
 イ わたしたちが、つまらない話しかしなくなってしまったこと。
 ウ わたしたちが、言葉にしたほうがよいことをしなくなってしまったこと。
 オ わたしたちが、議論することを避けるようになってしまったこと。

100

巻頭

世界はうつくしいと 長田 弘

うつくしいものの話をしよう。

いつからだろう。ふと気がつくと、

うつくしいということばを、ためらわず

口にするなどを、誰もしなくなつた。

そうしてわたしたちの会話は貧しくなつた。

うつくしいものをうつくしいと言おう。

④ 風の匂いはうつくしいと。渓谷の

石を伝わってゆく流れはうつくしいと。

午後の草に落ちている雲の影はうつくしいと。

遠くの低い山並みの静けさはうつくしいと。

きらめく川辺の光はうつくしいと。

おおきな樹のある街の通りはうつくしいと。

行き交いの、なにげない挨拶はうつくしいと。

花々があつて、奥行きのある路地はうつくしいと。

雨の日の、家々の屋根の色はうつくしいと。

太い枝を空いっぱいにひろげる

晩秋の古寺の、大銀杏はうつくしいと。

冬がくるまえの、曇りの日の、

南天の、小さな朱い実はうつくしいと。

コムラサキの、実のむらさきはうつくしいと。

過ぎてゆく季節はうつくしいと。

21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

- (4) [線] — 線③「うつくしいものをうつくしいと言おう。」とあります。これと同じ表現を繰り返している行を抜き出し、行番号を答えなさい。(5点)
 1 「うつくしいと」の後に省略されている言葉を二字で書きなさい。
 (5点×3)

- 2 これは、どの感覚を働かせた表現ですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 視覚 イ 聴覚 ウ 嗅覚 エ 味覚

- 3 この後作者は「うつくしいもの」を列挙していますが、それらはどのようなものですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

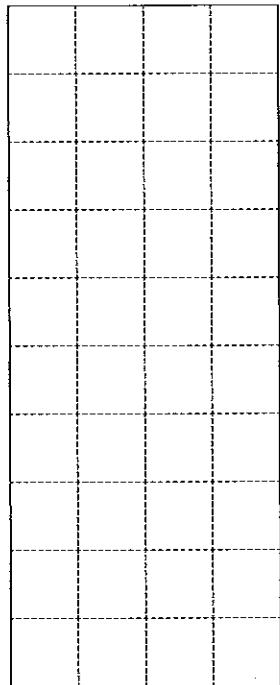
ア とても貴重でなかなか手に入れられないもの。

イ 身の回りのさまざまなところに何気なくあるもの。

ウ 永遠に存在し続けていて決して失われないもの。

エ 人によつて見えたり見えなかつたりするもの。

--



(2) 線①「ふと気がつくと」とあります。作者はどうなことに気がついたのですか。四十字以内で書きなさい。

(15点)

(1) この詩の用語・形式を、漢字五字で書きなさい。

(1) この詩の用語・形式を、漢字五字で書きなさい。

(5点)

(2) 線①「ふと気がつくと」とあります。作者はどうなことに気がついたのですか。四十字以内で書きなさい。

(15点)

(3) 線①「ふと気がつくと」とあります。作者はどうなことに気がついたのですか。四十字以内で書きなさい。

(15点)

(4) 線①「ふと気がつくと」とあります。作者はどうなことに気がついたのですか。四十字以内で書きなさい。

(15点)

(5) 線①「ふと気がつくと」とあります。作者はどうなことに気がついたのですか。四十字以内で書きなさい。

(15点)

(6) 線①「ふと気がつくと」とあります。作者はどうなことに気がついたのですか。四十字以内で書きなさい。

(15点)

(7) 線①「ふと気がつくと」とあります。作者はどうなことに気がついたのですか。四十字以内で書きなさい。

(10点)

(8) 線①「ふと気がつくと」とあります。作者はどうなことに気がついたのですか。四十字以内で書きなさい。

(10点)

- ⑤さらりと老いてゆく人の姿はうつくしいと。
一体、ニュースとよばれる日々の破片が、
わたしたちの歴史と言うようなものだろうか。
あざやかな毎日こそ、わたしたちの価値だ。
うつくしいものをうつくしいと言おう。
幼い猫とあそぶ一刻はうつくしいと。
シユロの枝を燃やして、灰にして、撒く。
何ひとつ永遠なんなく、いつか
すべて塵にかかるのだから、世界はうつくしいと。

※1～30は行番号を示しています。

- 何ひとつ永遠なんなく、いつか
すべて塵にかかるのだから、世界はうつくしいと。

※1～30は行番号を示しています。

30 29 28 27 26 25 24 23 22

⑥さらりと老いてゆく人の姿はうつくしいと。

(6) [出る] 線⑤「一体、……言うようなものだろうか。」について、次の各問いに答えなさい。

1 「ニュースとよばれる日々の破片」と対極にあるものとして表現されているものを、これより後の部分から七字で抜き出しなさい。

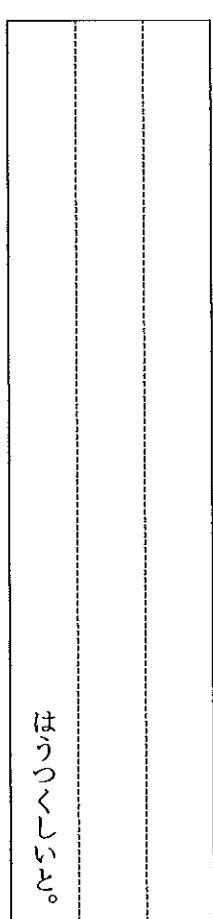
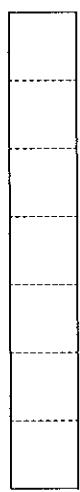
2 ここに込められている作者の思いとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

A わたしたちの人生を形作っているものは、ニュースなどではない。

B 最近のニュースは、本当にうつくしいものを伝えていない。

C 歴史というものは、さまざまにさまざまなニュースの積み重ねにすぎない。

D 毎日のニュースを知ることなしに、生きていくことはできない。



2 握手

● 単元の確認

全體像の確認

ルロイ修道士と再会	
場所	上野公園の西洋料理店
時	桜の花は散り、葉桜にはまだ間がある頃
ルロイ修道士の目的	故郷のカナダに帰るので、さよならを言うため

ルロイ修道士とは	
児童養護施設	「光ヶ丘天使園」の園長
カナダで、農場の五男坊に生まれる	
第二次世界大戦直前の昭和十五年の春から日本暮らし	
指で感情を表す癖がある—指言葉	

回 想

ルロイ修道士と「わたし」との語らい

ルロイ修道士の死

【回想】
・まもなく一周忌・上野公園の葉桜が終わる頃、仙台の修道院でなくなつた。

再会した頃は、身体中が悪い腫瘍の祟になつてゐたと、葬式のときに聞いた。

ルロイ修道士にぶたれた
・舞踏で天使園を抜け出して東京へ行つたときに、平手打ちされた。

（わかりました、の代わりに）

右の親指を立て、先生の手をとつて、しつかり握つた。
（わかりました、の代わりに）

日本人を憎んでいるとのうわさ
・ルロイ先生は、戦時中、日本人に左の人さし指をたたき潰された。

・オムレツを食べない
ルロイ先生にぶたれた
・舞踏で天使園を抜け出して東京へ行つたときに、平手打ちされた。

別れのときが近づいてくる



【回想】
・初めての握手は、万力よりも強い握力だった。
・手のひらを擦り合わせる
重い病気なのではないか?
お別れの儀式なのではないか?
死ぬのは怖くありませんか?
「天国へ行くのですから、そう怖くはありませんよ。」

【回想】
・最初の握手は、万力よりも強い握力だった。
・手のひらを擦り合わせる
重い病気なのではないか?
お別れの儀式なのではないか?
死ぬのは怖くありませんか?
「天国へ行くのですから、そう怖くはありませんよ。」

【回想】
・最初の握手は、万力よりも強い握力だった。
・手のひらを擦り合わせる
重い病気なのではないか?
お別れの儀式なのではないか?
死ぬのは怖くありませんか?
「天国へ行くのですから、そう怖くはありませんよ。」

- 1 「わたし」は、ルロイ修道士とは、いつ頃、どこで再会しましたか。次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。
- ・桜の花が散つて□頃に、□で再会した。

2

- ルロイ修道士と再会したときに「わたし」が感じたことをまとめた次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。
- ・カナダに帰ることになつたというルロイ修道士との握手は、以前のようよりも強いというものではなく、実に穏やかだつた。

もなく、「□は□せよ」という□のような言葉を言ったルロイ修道士は、重い□なのではないか、この再会は、お別れの□なのではないかと感じた。

- ・登場人物の言動に着目して、心情とともに人物像を読み取る。
・登場人物の生き方や考え方を捉えたうえで、人間の生き方にについても考える。

全體像の確認問題

- 3 ルロイ修道士の葬式のときに、「わたし」はどんな事実を知りましたか。次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。
- ・ルロイ修道士に再会した頃は、身体中がなつていていたこと。

漢字・語句の確認

教科書 p.14 25

- ① 漢字の読み書き——線の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。

- () □① 無邪氣な代物。 () □② 穏やかな握手。 () □③ 裏庭にある鶏舎。
 () □④ 荒れ地を開墾する。 () □⑤ 監督官に申し出る。 () □⑥ 大日本帝国の法律。
 () □⑦ 言い方が傲慢だ。 () □⑧ 行方ゆくえを捜す。 () □⑨ 仕事を分割する。
 () □⑩ 遺言いんごんを聞く。 () □⑪ まもなく一周忌だ。 () □⑫ 悪い腫瘍。
 () □⑬ 日本の土をフむ。 () □⑭ 共同のセンタク場。
 () □⑯ 手をスリ合わせる。 () □⑯ 人さし指のツメ。
 () □⑰ ドロだらけになる。 () □⑯ うれしそうにナガめる。
 () □⑲ ぶるぶるフルえる。 () □⑳ 布を折りタタむ。
 () □㉑ ジョウダンではない。 () □㉒ セイメイを名乗る。
 () □㉓ 死ぬのがコワい。 () □㉔ ソウシキに参列する。

- ② 語句の意味 次の語句の意味を、□に言葉を当てはめて完成させなさい。

① 達者

- ある物事に熟達していくこと。

② 年季が入る

- 同じ仕事にすること。

③ 気前がいい

- 金や物を□こと。
□こと。

④ 地道

- 手堅く□こと。
□こと。

⑤ いとまごい

- をすること。

③ 対義語 次の一線の語の対義語を書きなさい。

平凡な質問をする。

④ 慣用句 次の文の□に当てはまる慣用句を、後から一つ選んで書きなさい。

寺の修復のために、
宮大工ばかりを集める。

腕が立つ 腕を振るう 腕によりをかける

⑤ 短文作成 次の言葉を使って、短文を作りなさい。
むやみに

（ ）

▽▽▽次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

得点

100

9

p.
16
18

「わたし」は、上野公園にある西洋料理店で、故郷へ帰ることになったので、さよならを言うために皆さんに会って回っている。というルロイ修道士と再会した。このときの握手は、以前と違つて実に穏やかだつた。ルロイ修道士は、かつての収容児童たちの近況を語り始めた。やがて注文したプレーンオムレツがルロイ修道士の前に置かれた。

①先生の左の人さし指は、相変わらず不思議なかつこうをしていますね。」「フォークを持つ手の人さし指がぴんと伸びている。指の先の爪は潰れており、鼻くそを丸めたようなものがこびりついている。正常な爪はもう生えてこないのである。あの頃、ルロイ修道士の奇妙な爪について、天使園にはこんなうわさが流れていた。日本にやって来て二年もしないうちに戦争が始まり、ルロイ修道士たちは横浜から出帆する最後の交換船でカナダに帰ることになった。ところが日本側の都合で、交換船は出帆中止になってしまったのである。そして、連れていかれたところは丹沢の山の中。戦争が終わるまで、ルロイ修道士たちはここで荒れ地を開墾し、みかんと足柄茶を作らされた。そこまではいいのだが、カトリック者は日曜日の労働を戒律で禁じられているので、ルロイ修道士が代表となつて監督官に、「日曜日は休ませてほしい。その埋め合わせは、他の曜日にきつとする。」と申し入れた。すると監督官は、「大日本帝国の七曜表は月月火水木五金。この国には土曜も日曜もありやせんのだ。」と叱りつけ、見せしめに、ルロイ修道士の左の人さし指を木づちで思い切りたたき潰したのだ。だから20気をつける。ルロイ先生はいい人にはちがいないが、心の底では日本人を憎んでいる。いつかは爆発するぞ。……しかし、ルロイ先生はいつまでたつても優しかった。そればかりかルロイ先生は、戦勝国の白人であるにもかかわらず敗戦国の子供のために、泥だらけになつて野菜を作り鶏を育てて

5

2 「不思議なかつこう」をしていることによつて、うわさは「立ち消えになつた」のですか。回想部分の初めの五字を文章中から抜き出しなさい。(10点)

(10点)

(2)

出る 線②「心の底では日本人を憎んでいる」とあります。ルロイ先生が「日本人を憎んでいる」とうわざされた直接の原因を、「監督官」という言葉を使って書きなさい。(15点)

(3)

出る 線③「これはどういうことだろう。」とあります。天使園の子供たちは、ルロイ先生のどのような行動に疑問を感じていますか。次の文の□に当てはまる言葉を、文章中から三十一字で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。(5点)

■優しいだけでなく、□行動。

(4)

出る 線④「すぐ立ち消えになつた」について、次の各問い合わせに答えなさい。
1 出る 「立ち消えになつた」のは、どのようなうわさですか。その内容の中心を表している一文を文章中から抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。(10点)

2 ルロイ先生のどのような様子を見たことによつて、うわさは「立ち消えになつた」のですか。「自分の作った野菜を……」に続けて、「子供たち」という言葉を使って書きなさい。(15点)

いる。⁽³⁾ これはどういうことだろう。

「こここの子供をちゃんと育ててから、アメリカのサーカスに売るんだ。だから、こんなに親切なんだぞ。あとでどつと元をとる気なんだ。」⁽⁴⁾ といううわさも立つたが、すぐ立ち消えになつた。おひたしや汁の実になつた野菜がわたしたちの口に入るところを、あんなにうれしそうに眺めているルロイ先生を、ほんの少しでも疑つては罰が当たる。みんながそう思い始めたからである。

⁽⁵⁾ 「日本人は先生に対して、ずいぶんひどいことをしましたね。交換船の中止にしても国際法無視ですし、木づちで指をたたき潰すに至つては、もうなんて言つていいか。申し訳ありません。」

ルロイ修道士はナイフを皿の上に置いてから、右の人さし指をぴんと立てた。指の先は天井を指してぶるぶる細かく震えている。また思い出した。ルロイ修道士は、「こら。」とか、「よく聞きなさい。」とか言う代わりに、右の人さし指をぴんと立てるのが癖だった。

「総理大臣のようなことを言つてはいけませんよ。だいたい、日本人を代表してものを言つたりするのは傲慢です。それに、日本人とかカナダ人と⁴⁰かアメリカ人といったようなものがあると信じてはなりません。一人一人の人間がいる、それだけのことですから。」

（井上ひさし「握手」より）

25

自分の作った野菜を

3 「立ち消えになつた」のは、子供たちがどのような気持ちになつたからですか。「……という気持ち。」に続くように、文章中から抜き出しなさい。（10点）

という気持ち。

（6）――線⑤「日本人は先生に対して、ずいぶんひどいことをしましたね。」について、次の各問いに答えなさい。（10点×2）

- 1 「わたし」のこの言葉を、ルロイ修道士は何と言つて戒めていますか。文章中から二字で抜き出しなさい。
- 2 ルロイ修道士は、このとき「わたし」にどのようなことを伝えようとしていますか。次の文の〔 〕に当てはまる言葉を文章中から抜き出しなさい。
 - ・人間を、その人がどこの国人であるということではなく、ただ〔 〕というように考へるということ。

(1) 線①「先生の左の人さし指は、相変わらず不思議なかつこうをしていまますね。」について、次の各問い合わせに答えなさい。

1 「左の人さし指」がどんなふうになつているかを描写している一文を文章中から抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。（5点）

（6）ルロイ修道士は、どのような人物として描かれていますか。当では、まらないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。（10点）

- A 自分が正しいと思ったことをはつきりと主張する人物。
 イ 仲間のために行動することができる人物。
 ウ 激しい感情は心の底にしまい表に出さない人物。
 エ 一人一人の人間を偏見なく見つめようとする人物。

▼▼▼次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

得点
100
教科書
p. 18 20

「おいしいですね、このオムレツは。」

ルロイ修道士も右の親指を立てた。^①わたしは、はてなと心の中で首をかしげた。おいしいと言うわりには、ルロイ修道士に食欲がない。ラグビーのボールを押し潰したようななかつこうのプレーンオムレツは、空気を入れればそのままグラウンドに持ち出せそうである。ルロイ修道士はナイフとフォークを動かしているだけで、オムレツをちつとも口へ運んではいないのだ。「それよりも、わたしはあなたをぶつたりはしませんでしたか。あなたにひどい仕打ちをしませんでしたか、もし、していたなら、謝りたい。」「一度だけ、ぶたれました。」

ルロイ修道士の、両手の人さし指をせわしく交差させ、打ちつけている姿が脳裏に浮かぶ。^②これは危険信号だった。この指の動きでルロイ修道士は、「おまえは悪い子だ。」とどなっているのだ。そして次には、きっと平手打ちが飛ぶ。ルロイ修道士の平手打ちは痛かつた。

「やはりぶちましたか。」

ルロイ修道士は悲しそうな表情になつて、ナップキンを折り畳む。食事はもうおしまいなのだろうか。

「でも、わたしたちは、ぶたれてあたりまえの、ひどいことをしてかしたんです。高校二年のクリスマスだったと思いますが、無断で天使園を抜け出して東京へ行つてしまつたのです。」

翌朝、上野へ着いた。有楽町や浅草で映画と実演を見て回り、夜行列車で仙台に帰つた。そして待つていたのがルロイ修道士の平手打ちだつた。「あざつての朝、必ず戻ります。心配しないでください。搜さないでください。」という書き置きを、園長室の壁に貼りつけておいたのだが。「ルロイ先生は一月間、わたしたちに口をきいてくれませんでした。平手

- (1) 線①「わたしは、はてなと心の中で首をかしげた。」とあります。その理由をまとめた次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。(10点×2)

・ルロイ修道士は、

そのわりには□
様子だから。

- (2) 線②「これは危険信号だった。」について、次の各問い合わせに答えなさい。
1 □出る 「危険信号」だと感じさせたルロイ修道士の動作を、文章中の言葉を使って、「……動作」の形で書きなさい。(20点)

□

- 2 このような点で「危険」だったのですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(10点)

ア ルロイ修道士が子供の悪事を見抜いているという点。

イ ルロイ修道士を大変困らせてしまつたという点。

ウ ルロイ修道士の怒りが非常に激しいという点。

エ ルロイ修道士の子供たちへの失望が大きいという点。

□

- 3 線③「そして待つっていたのがルロイ修道士の平手打ちだつた。」とあります。ルロイ修道士は、なぜ平手打ちをしたのですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(10点)

- ア 自分の言うとおりにしない子供たちに、つい腹が立つたから。
- イ 規則を破つたうえ、人に心配をかけたことが許せなかつたから。
- ウ 腕力で押さえることでしか、園の秩序を保てなかつたから。
- エ 用意周到な計画的な行動だとわかり、悪質だと判断したから。
-

- 4 線④「あの頃と違つて、顔は笑つていた」とあります。ルロイ修道士がこのような表情を見せたのはなぜですか。適切なものを次から一つ選び、

打ちよりこつちのほうがこたえましたよ。

「そんなこともありましたねえ。あのときの東京見物の費用は、どうやつてひねり出したんです。」

「それはあのとき白状しましたが……。」

「わたしは忘れてしました。もう一度教えてくれませんか。」

「準備に三ヶ月はかかりました。先生からいただいた純毛の靴下だの、つなぎの下着だのを着ないでとつておき、駅前の闇市で売り払いました。鶏舎から鶏を五、六羽持ち出して、焼き鳥屋に売ったりもしました。」

ルロイ修道士は改めて両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつける。ただしあの頃と違つて、顔は笑つていた。

「先生はどこかお悪いんですか。ちつとも召しあがりませんね。」

「少し疲れたのでしょうか。これから仙台の修道院でゆっくり休みます。力ナダへたつ頃は、前のような大食らいに戻つていますよ。」

「だつたらいいのですが……。」

「仕事はうまくいっていますか。」

「まあまあといつたところです。」

「よろしい。」

ルロイ修道士は右の親指を立てた。

「仕事がうまくいかないときは、この言葉を思い出してください。『困難は分割せよ。』あせってはなりません。問題を細かく割つて、一つ一つ地道に片づけていくのです。ルロイのこの言葉を忘れないでください。」

⑤「冗談じゃないぞ、と思った。これでは、遺言を聞くためにはつたようなものではないか。そういうえば、さつきの握手もなんだか変だつた。「それは実に穏やかな握手だつた。ルロイ修道士は病人の手でも握るようにそつと握手をした。」というようく感じたが、実はルロイ修道士が病人なのではないか。元園長は何かの病にかかり、この世のいとまごいに、こうやって、かつての園児を訪ねて歩いているのではないか。〈井上ひさし「握手」より〉

40

35

30

25

記号で答えなさい。

(10点)

- ア かつて自分が激しく怒った理由が、今では納得できないから。
イ 「わたし」に対して、今はもう責任を感じる必要がないから。

- ウ 現在の「わたし」との関係を壊すことはしたくないから。
エ 今となつては過去の出来事で、なつかしい思い出だから。

(5)

――線⑤「冗談じやないぞ、と思った。」について、次の各問に答えなさい。

- 1 「わたし」は、どのようなことに対する、「冗談じやないぞ」と思ったのですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。 (10点)

- ア ルロイ修道士が「困難は分割せよ。」といった説教じみたことを、大人になつた「わたし」に言い出したこと。

- イ ルロイ修道士が、まるでこの世で最後に言い残す言葉であるかのよう

- な言い方で「困難は分割せよ。」と言つたこと。

- ウ ルロイ修道士がかつての厳格さを失い、どこか気弱なところを見せるようになつてしまつてていること。

- エ ルロイ修道士が今でも、「わたし」も含めてかつての園児たちの身の上を自分のことのように心配していること。



という想像をした。



▼▼▼次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

「日本でお暮らしになつていて、楽しかったことがあつたとすれば、それはどんなことでしたか。」

先生は重い病気にかかりてゐるのでしよう、そして、これはお別れの儀式なのですねときこうとしたが、さすがにそれははばかられ、結局は、平凡な質問をしてしまつた。

「それはもう、こうやつているとき決まっています。天使園で育つた子供が世の中へ出て、一人前の働きをしているのを見るときがいつとう樂しい。何よりもうれしい。そうそう、あなたは上川君を知つていますね。上川一雄君ですよ。」

もちろん知つている。ある春の朝、天使園の正門の前に捨てられていた子だ。捨て子は春になるとぐんと増える。陽気がいいから、発見されるまで長くかかる風邪を引くことはあるまいという、母親たちの最後の愛情が春を選ばせるのだ。捨て子はたいてい姓名がわからない。そこで、中学生、高校生が知恵を絞つて姓名をつける。だから、忘れるわけはないのである。

「あの子は今、市営バスの運転手をしています。それも、天使園の前を通っている路線の運転手なのです。そこで、月に一度か二度、駅から上川君の運転するバスに乗り合わせることがあるのですが、そのときは樂しいですよ。まずわたしも乗りますと、こんな合図をするんです。」

ルロイ修道士は右の親指をぴんと立てた。

「わたしの癖をからかつてゐるんですね。そうして、わたしに運転の腕前を見てもらいたいのですね。そうして、バスをぶんぶん飛ばします。最後に、バスを天使園の正門前に止めます。停留所じゃないのに止めてしまうんです。上川君はいけない運転手です。けれども、そういうときがわたしにはいつ

まもなく一周忌である。わたしたちに会つて回つて回つていた頃のルロイ修道士は、身体中が悪い腫瘍の巣になつていていたそうだ。葬式でそのことを聞いたとき、わたしは知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた。

（井上ひさし「握手」より）

- (1) [出る] 線①「こうやつているとき」とは、どういうときですか。文章中から三十字以上三十五字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。
（5点）

- (2) —線②「もちろん知つている。」とありますか、「わたし」が上川一雄という名前を忘れていた理由を、二十字以内で書きなさい。
（15点）

- (3) —線③「上川君はいけない運転手です。」のように、今の上川君について語るルロイ修道士の気持ちを、「上川君」という言葉を使って書きなさい。
（15点）

- (4) —線④「いつとう悲しいとき」を尋ねられて、ルロイ修道士はどのように答えていましたか。「……のを見るとき。」に続くように、文章中から四十六字で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。
（5点）

のを見るとき。

- (5) —線⑤「ルロイ修道士は少し赤くなつて頭をかいた」とあります
が、その理由として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
（10点）

ルロイ修道士は顔をしかめてみせた。
上野公園の葉桜が終わる頃、ルロイ修道士は仙台の修道院でなくなつた。

2 握手

50

とう楽しいのですね。」

「いつどう悲しいときは……？」

「天使園で育つた子が世の中に出て結婚しますね。子供が生まれます。ところがそのうちに、夫婦の間がうまくいかなくなる。別居します。離婚します。やがて子供が重荷になる。そこで、天使園で育つた子が、自分の子を、またもや天使園へ預けるために長い坂をとぼとぼ上つてやって来る。それを見るときがいつどう悲しいですね。なにも、父子二代で天使園に入ることはないんです。」

ルロイ修道士は壁の時計を見上げて、

「汽車が待っています。」

と言い、右の人さし指に中指をからめて掲げた。これは「幸運を祈る」「しつかりおやり」という意味の、ルロイ修道士の指言葉だった。

上野駅の中央改札口の前で、思い切ってきいた。

「ルロイ先生、死ぬのは怖くありませんか。わたしは怖くてしかたがないませんが。」

かつて、わたしたちがいたずらを見つかったときにしたように、⁽⁵⁾ルロイ⁴⁰修道士は少し赤くなつて頭をかいた。

「天国へ行くのですから、そう怖くはありませんよ。」

「天国か。本当に天国がありますか。」

「あると信じるほうが楽しいでしょうが。死ねば、何もないただむやみに寂しいところへ行くと思うよりも、にぎやかな天国へ行くと思うほうがよほど楽しい。そのため、この何十年間、神様を信じてきたのです。」

わかりましたと答える代わりに、わたしは右の親指を立て、それからルロイ修道士の手をとつて、しっかりと握った。⁽⁷⁾それでも足りずに、腕を上下に激しく振つた。

「痛いですよ。」

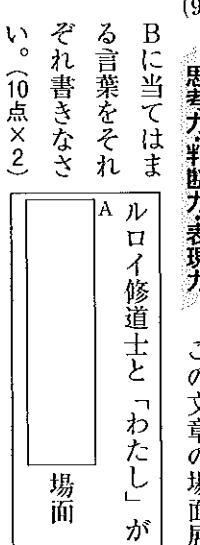
ルロイ修道士は顔をしかめてみせた。
上野公園の葉桜が終わる頃、ルロイ修道士は仙台の修道院でなくなつた。

- A 修道士にとつて答えにくい、難しい質問をされたから。
イ 「わたし」のぶしつけな問い合わせに返す言葉がなかつたから。
ウ 自分が死を怖がつてていることに気づかれてしまつたから。
- (6) — 線⑥「あると信じるほうが楽しいでしょうが。……よほど楽しい。」
という言葉から、ルロイ修道士についてどのようなことがわかりますか。適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。
(5点×2)
ア 心の奥底では死を強く恐れていること。
イ 信仰者として信念をもつていていること。
ウ 本当は天国などないと思つてていること。
エ 独りになるのを嫌つてしていること。
オ 前向きな考え方をしていること。

(7) [出る] — 線⑦「それでも足りずに、腕を上下に激しく振つた。」とあります。この動作には、「わたし」のどのような気持ちが込められていますか。適切ではないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
(10点)
ア ルロイ修道士の生き方や考え方には、深く共感する気持ち。
イ もう先の長くないルロイ修道士に力づけ、励ます気持ち。

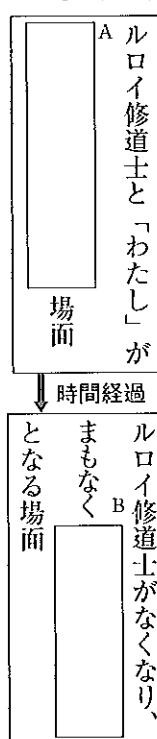
ウ ルロイ修道士と再会し、会話を楽しんで満足する気持ち。
エ 自分たちを導いてくれたルロイ修道士に感謝する気持ち。

(8) [出る] — 線⑧「わたしは……打ちつけていた」とありますが、このときの「わたし」の心情として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 驚きととまどい
イ 怒りと悲しみ
ウ いらだちと憎しみ
エ 悔しさと諦め
(10点)



B に当てはまる
ルロイ修道士と「わたし」が
思考力・判断力・表現力 この文章の場面展開を表した次の図の□ A・
Bに書きなさい。
(10点)

い。 (10点×2)
ぞれ書きなさい。



まもなく
となる場面
ルロイ修道士がなくなり、

定期テスト　得点問題

得点
100

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

【「一度だけ、ぶたれました。」】

ルロイ修道士の、両手の人さし指をせわしく交差させ、打ちつけている姿が脳裏に浮かぶ。これは危険信号だった。この指の動きでルロイ修道士は、「おまえは悪い子だ。」とどなっているのだ。そして次には、きつと平手打ちが飛ぶ。ルロイ修道士の平手打ちは痛かった。

【「やはりぶちましたか。」】

ルロイ修道士は悲しそうな表情になつて、ナップキンを折り畳む。食事はもうおしまいなのだろうか。

【「でも、わたしたちは、ぶたれてあたりまえの、ひどいことをしてかしたんですね。高校二年のクリスマスだったと思いませんが、無断で天使園を抜け出して東京へ行つてしまつたのです。」】

翌朝、上野へ着いた。有楽町や浅草で映画と実演を見て回り、夜行列車で仙台に帰つた。そして待つっていたのがルロイ修道士の平手打ちだった。「あさつての朝、必ず戻ります。心配しないでください。サガさないでください。」という書き置きを、園長室の壁に貼りつけておいたのだが。

【「ルロイ先生は一月間、わたしたちに口をきいてくれませんでした。平手打ちよりこつちのほうがこたえましたよ。」】

【「そんなこともありましたねえ。あのときの東京見物の費用は、どうやってひねり出しましたね？」】

【「それはあのとき白状しましたが……。」】

【「わたしは忘れてしました。もう一度教えてくれませんか。」】

【「準備に三ヶ月はかかりました。先生からいただいた純毛の靴下だの、つなぎの下着だのを着ないでとつておき、駅前の闇市で売り払いました。鶴舎から鶴を五、六羽持ち出して、焼き鳥屋に売つたりもしました。」】

ルロイ修道士は改めて両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつける。たしあの頃と違つて、顔は笑つていた。

【「先生はどこかお悪いんですか。ちつとも召しあがりませんね。」】

【「少し疲れたのでしょうか。これから仙台の修道院でゆつくり休みます。カナダへたつ頃は、前のような大食らいに戻つていますよ。」】

【「だつたらいいのですが……。」】

【「仕事はうまくいっていますか。」】

【「まあまあといったところです。」】

【「よろしい。」】

ルロイ修道士は右の親指を立てた。

【「仕事がうまくいかないときは、この言葉を思い出してください。『困難は分割せよ。』あせつてはなりません。問題を細かく割つて、一つ一つ地道に片づけていくのです。ルロイのこの言葉を忘れないでください。」】

【「ジョウダンじやないぞ、と思った。これでは、遺言を聞くために会つたようなものではないか。」】

【「そういえば、さつきの握手もなんだか変だつた。『それは実にオダやかな握手だつた。ルロイ修道士は病人の手でも握るようにそつと握手をした。』」】

【「というように感じたが、実はルロイ修道士が病人なのではないか。元園長は何かの病にかかり、この世のいとまごいに、こうやって、かつての園児を訪ねて歩いているのではないか。」】

【「日本でお暮らしになつていて、楽しかったことがあつたとすれば、それはどんなことでしたか。」】

【「先生は重い病気にかかっているのでしょうか。そして、これはお別れの儀式なのですね」ときこうとしたが、さすがにそれはばかられ、結局は、平凡な質問をしてしまつた。】

【「それはもう、こうやつてているときに決まつています。天使園で育つた子供が世の中へ出て、一人前の働きをしているのを見るときがいつとう楽しい。何よりもうれしい。そうそう、あなたは上川君を知っていますね。上川一雄君ですよ。」】

【「もちろん知つてます。ある春の朝、天使園の正門の前に捨てられていた子だ。」】

捨て子は春になるとぐんと増える。陽気がいいから、発見されるまで長くかかる風邪を引くことはあるまいという、母親たちの最後の愛情が春を選ばせるのだ。捨て子はたいてい姓名がわからない。そこで、中学生、高校生が知恵を絞つて姓名をつける。だから、忘れるわけはないのである。

「あの子は今、市営バスの運転手をしています。それも、天使園の前を通っている路線の運転手なのです。そこで、月に一度か二度、駅から上川君の運転するバスに乗り合わせることがあるのですが、そのときは楽しいですよ。まずわたくしが乗りますと、こんな合図をするんです。」

ルロイ修道士は右の親指をぴんと立てた。

「わたしの癖をからかっているんですね。そして、わたしに運転の腕前を見てもらいたいのでしょうか、バスをぶんぶん飛ばします。最後に、バスを天使園の正門前に止めます。停留所じゃないのに止めてしまうんです。上川君はいけない運転手です。けれども、そういうときがわたしにはいつも楽しいのですね。」

「いつどう悲しいときは……？」

「天使園で育った子が世の中に出で結婚しますね。子供が生まれます。ところがそのうちに、夫婦の間がうまくいかなくなる。別居します。離婚します。やがて子供が重荷になる。そこで、天使園で育った子が、自分の子を、またもや天使園へ預けるために長い坂をとぼとぼ上つてやって来る。それを見るとがいつとう悲しいですね。なにも、父子二代で天使園に入ることはないんです。」

ルロイ修道士は壁の時計を見上げて、

「汽車が待っています。」

A 「言い、右の人さし指に中指をからめて掲げた。これは「幸運を祈る」「しつかりおやり」という意味の、ルロイ修道士の指言葉だった。」

上野駅の中央改札口の前で、思い切ってきいた。

「ルロイ先生、死ぬのは怖くありませんか。わたしは怖くてしかたがありませんが。」

かつて、わたしたちがいたずらを見つかったときにしたように、ルロイ修道士は少し赤くなつて頭をかいた。

「天国へ行くのですから、そう怖くはありませんよ。」

「天国か。本当に天国がありますか。」

「あると信じるほうが楽しいでしようが。死ねば、何もないただむやみに寂しいところへ行くと思うよりも、にぎやかな天国へ行くと思うほうがよほど楽しい。」

B そのために、この何十年間、神様を信じてきたのです。」

わかりましたと答える代わりに、わたしは右の親指を立て、それからルロイ修道士の手をとつて、しっかりと握った。それでも足りずに、腕を上下に激しく振った。

(井上ひさし「握手」より)

(1) ～線①～③の片仮名を漢字に直しなさい。(④は「探」以外の漢字)(1点×3)

Ⓐ

Ⓑ

Ⓒ

やかな
さないで

Ⓐ

Ⓑ

Ⓒ

(2) ～線①「ルロイ修道士の、……脳裏に浮かぶ。」とあります、「わたし」は、ルロイ修道士のこの動作の後にどのようなことが起ることを思い出していますか。ルロイ修道士の気持ちを含めて書きなさい。(10点)

(3) ～線②「ルロイ修道士は悲しそうな表情になつて」とありますが、このときのルロイ修道士の気持ちに当てはまらないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

Ⓐ 後悔 イ 当惑 ウ 反省 エ 自責

(5点)

(4) ～線③「ひどいこと」とは、どのようなことですか。次の文の□に当てはまる言葉を、文章中の言葉を使って、二十字以内で書きなさい。(7点)

・ルロイ修道士に□こと。

(5) — 線④「遺言」について、次の各問い合わせに答えなさい。

- 1 「わたし」が「遺言」のようを感じた、ルロイ修道士が残したかった言葉を、文章中から抜き出しなさい。(5点)

- 2 ルロイ修道士は「遺言」のような言葉を言つたために、話題を変えています。その発言を一文で抜き出しなさい。(5点)

(6) — 線⑤「そういえば、さつきの握手もなんだか変だつた。」とあります、「遺言」のような言葉と握手以外に、ルロイ修道士について変だと感じたことを、「……ルロイ修道士が、……」という形で書きなさい。(5点)

(7) — 線⑥「お別れの儀式」とは、ルロイ修道士のどのような行動のことですか。文章中の言葉を使って、二十字以内で書きなさい。(10点)

(8) — 線⑦「結局は、平凡な質問をしてしまつた」とあります、このときの「わたし」の気持ちとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(5点)

- ア 人の生死にかかわる重大なことを安易にはきけないという気持ち。
イ ルロイ修道士との再会を楽しい気分で終わらせたいという気持ち。
ウ すっかり動搖して、何をきけばよいかわからぬという気持ち。
エ 見当はずれかもしれないことをきくのは失礼だという気持ち。
- (9) — 線⑧「なにも、父子二代で天使園に入ることはないんです。」に表れているルロイ修道士の気持ちを書きなさい。(10点)

(10) — 線⑨「思い切つてきいた」とありますが、このときの「わたし」の気持ちとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(5点)

ア もしルロイ修道士が重い病気にかかっているのなら、そのことを正直に話してほしいという気持ち。

イ 「わたし」は死ぬのが怖いので、ルロイ修道士から死を怖がらずにすむ方法を教えてもらいたいという気持ち。

ウ 神様を信じていれば死が近いことを知つたとしても、怖がらずにいられるのかどうかを知りたいという気持ち。

エ ルロイ修道士が自らの死についてどう考えているのかをきくと

ともに、師から自分の生き方を学びたいという気持ち。

(11) — 線A「右の人さし指に中指をからめて掲げた」、— 線B「わかりました」と答える代わりに、わたしは右の親指を立て」とありますが、ルロイ修道士と「わたし」にとって、指言葉はどのような意味をもつものになつていますか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(5点)

ア 重苦しい雰囲気を和らげるという意味。

イ 言葉以上の深い思いを伝えるという意味。

ウ 直接言いにくいことを表現するという意味。

エ 都合の悪い事柄を曖昧にするという意味。

(12)

- 思考力・判断力・表現力 文章の冒頭の【　】の部分では、現在の場面と回想部分がどのように組み合わされていますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

(10点)

ア

現在の場面
回想

イ

現在の場面
回想

ウ

現在の場面
回想

エ

現在の場面
回想

現在の場面
回想

現在の場面		

- (13) 思考力・判断力・表現力 あなたは、ルロイ修道士はどのような人物であると考えますか。根拠となる行動や発言を示しながら、五十字以内で書きなさい。

(15点)

3 「聞く」評価しながら聞く／季節のしおり 春

知識の確認

- 話を聞くときのポイント
 - ①自分の考えと比較しながら聞く。
(→共通点はどこか・相違点はどこか)
 - ②内容を評価しながら聞く。
 - ③表現のしかたを評価しながら聞く。
(→自分の話し方にも取り入れたい表現の工夫はあるか)
- 知識の確認問題

① 聞く、話を聞くときに心がけることについてまとめた、次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。

話の内容を評価するときには、主張に対する□があるかに注目する。また、発言の内容を自分の□が適切か、どの程度□し、共通点や□点を見いだすようとする。

考え方と□し、共通点や□点を見いだすようとする。

② 「春立つ」の意味を簡潔に書きなさい。

「春立つ」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 明るく輝く春の月 イ 水面に映る春の月
ウ カすんで見える春の月 エ 明け方に残る春の月

 教科書 p. 26 / 27

話す・聞く

4

学びて時に之を習ふ—「論語」から

● 単元の確認 ●

作品の確認

- 内容：孔子や、孔子の弟子たちの言行録

孔子の死後、弟子たちが書物に

- 孔子について…

- 中国古代（二千五百年以上前）の思想家

- 魯の国に仕える→弟子を連れて諸国を周遊→弟子の教育に力を注ぐ
- 孔子の理想：人格や道徳を高めることによって世を治めること

論語

- 有名な言葉

- 過ぎたるはなお及ばざるが如し
- 己の欲せざる所は人に施すこと勿れ
- 一を聞いて十を知る

- 子曰はく、「学びて時に……」

- 学問をすることの喜び
- 志を同じくする人たちと向上してゆくことの楽しみ
- 学徳の備わった君子の心構え

- 子曰はく、「故きを温めて……」

- 過去のことを研究する
- 新しい意義や知識を発見する

- ↓ 師となる資格がある

→ 「温故知新」という言葉が生まれた

子曰はく、「学びて思はざれば……」

- 先人に学ぶこと
- よく考えて研究すること

両方が大切

- 「知る者」は、「好む者」に
- 「好む者」は、「楽しむ者」に

及ばない

最も勝っているのは

楽しむ境地に達している者である

1 作品の確認問題

- 「論語」について、次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。

- 漢文を読むときの決まりを理解し、独特の言い回しなどに注意しながら読む。
- 歴史的な背景を踏まえ、孔子の教えを捉える。

2 「論語」の文章について、次の文の□に当てはまる言葉を書きなさい。

- ① 「学びて時に……」では、学問の□や□について語っている。

- ② 「故きを温めて……」では、□の事柄や学説を重ねて研究していく知識を発見することについて語っている。

- ③ 「学びて思はざれば……」では、先人から□ことと、自分でよ

- く□ことの両方の大切さについて語っている。

- ④ 「之を知る者は……」では、□境地に達しているものが最も勝る、ということについて語っている。

知識の確認

1 漢文の訓読

漢字だけで書かれている中国語の文章を、日本語の文章として読むこと。送り仮名・返り点・句読点を補い、古典の言葉や仮名遣いを用いる。

白文	漢字のみで書かれた原文。
訓読文	白文に訓点（訓読のために付ける送り仮名・返り点・句読点）を付けて、日本語の文章として読めるようにした文。
書き下し文	訓点をもとに漢文を訓読し、漢字仮名交じりの文語文に書き改めたもの。
(1) 送り仮名	漢字の右下に、片仮名で小さく書かれた文字。漢字の送り仮名や助詞・助動詞などを歴史的仮名遣いを用いて補う。 例 子 曰
(2) 返り点	漢字の左下に付けて、読む順序を表す符号。
① レ点	すぐ下の一字から返つて読む。
② 一・二点	二字以上を隔てて、上に返つて読む。
③ 上・(中・) 下点	一二点を挟んで、さらに上に返つて読む。
④ ハ点	レ点と一点とが組み合わさったもの。先にレ点に従う。

*他にも「甲・乙・丙点」「天・地・人点」などがある。

※送り仮名・返り点・句読点を合わせて訓点という。

(3) 句読点：白文の句や文の切れ目に付ける「。」や「。」など。

置き字：漢文としては意味をもつが、訓読のときは読まない文字。書き下し文にも書かない。送り仮名として意味が表されることが多い。

例 「而」〔順接〕 「学」 而 不レ思ハ

2 漢文特有の言い回し

↓学びて思はざれば〔而〕は読まず、書き下し文にも書かない。

言い回しの例	意味
「曰はく、『……』と。」	会話の引用
「思はざれば則ち罔し」	原因・結果
「亦……すや」	反語の形で相手に同意を促す言い方
「……はゞに如かず」	比較する言い方

3 知識の確認問題

1 漢文の種類 次の文は、「白文」「訓読文」「書き下し文」のうちのどれに当たりますか。それぞれ書きなさい。

① 吾十有五にして学に志す

② 吾十有五にして学に志す

③ 吾十有五而志于学

--	--	--